

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理(4) —マメザクラとキンキマメザクラ—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

春になると、野生種や園芸品種のサクラが各地で咲き、多くの県民を楽しませてくれます。このようにサクラは日本人にとっては非常に親しみのある樹木ですが、大木になるため狭い民家の庭にはあまり植えられていないようです。ところが、マメザクラやキンキマメザクラは小型であり、狭い庭にも適している樹木ではないかと思い、紹介します。

1. マメザクラとキンキマメザクラ

マメザクラ(写真-1、2)は本州中部の太平洋側に分布する野生種です。山地性で特に富士山山麓に多いことからフジザクラの別名もあります。木の高さは5m前後で、若木でも花をつけるので、早くから花見をすることができます。さらに、剪定にも強いため、木の高さを自由に制御することができるという利点があります。一方、マメザクラの変種にキンキマメザクラ(写真-3)があります。このサクラは北陸から中国地方の日本海側を中心とした広い地域に生育している野生種です。マメザクラとほぼ同じ性質を持っています。

2. 植栽時の注意点

サクラは、庭の中で日当たりの良い場所で、しかも肥沃で排水の良い土壤に植えるようにしましょう。

2. 植栽後の注意点

サクラの根は浅いところにあるので、土壤が乾燥するとその影響を受けやすいので、落葉等はそのままにして裸地化しないようにしましょう。また、サクラの周囲を踏み固めると、サクラが衰退しますので、踏み固めないようにしましょう。

害虫として注意したいのはアメリカシロヒトリです。若齢幼虫の間は巣の中において葉を食害しますので、下から見ると葉が透けて白っぽく見えます。その時期は、5月下旬から6月中旬と7月下旬から8月中旬の2回です。その頃に高枝バサミで、巣ごと切除して足で踏みつぶせば大丈夫です。その時期を過ぎると、デミリン水和剤の4000~8000倍液、スミチオン乳剤の500~1000倍液等の散布で対応してください。写真はすべて富山県中央植物園内で撮影したものです。



写真1 満開のマメザクラ



写真2 マメザクラ



写真3 キンキマメザクラ